

汐井町公園社会実験に係る
アンケート調査結果

令和7年
北九州市緑政課

1 汐井町公園実証実験の概要

(1) 本実証実験の目的

- ① 汐井町公園におけるバスケットコートの利用状況を把握し、高校生を中心とした若者層の利用頻度や利用時間帯の傾向を明らかにする。
- ② 3on3の実施を通じて、単なる運動の場にとどまらず、異なる学校や利用者同士の交流の発生といった、アーバンスポーツの持つ交流機能について検証を行う。
- ③ バスケットコート利用に伴う騒音や夜間利用の実態、トラブルの有無などを整理し、多様な公園利用のあり方について検討する。これにより、若者の活動機会の確保と地域住民の生活環境の保全を両立させるための運営・管理上の課題を整理する。

(2) 実証実験の概要

項目	内容
期間	令和7年10月5日(日)～10月13日(月・祝) 9日間
場所	汐井町公園(戸畑区汐井町)
目的	・汐井町公園におけるバスケットゴールのニーズ調査 ・3on3の交流機能の検証・周囲への影響調査
利用ルール	利用時間(8～20時)を守ろう・譲り合って使おう・ゴミは持ち帰ろう
備考	・社会実験初日(10/5)に、社会実験の周知、高校生の交流促進のため「高校生の3on3大会」を開催(協力：北九州3on3協会) ・社会実験の結果を踏まえ、汐井町公園の再整備を検討

2 アンケート調査

(1) 目的

実証実験による若者の利用実態の把握に加え、近隣住民の評価や懸念事項を集約し、バスケットゴール設置の是非や必要な対策を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

(2) 対象者、調査方法

アンケート対象	アンケート調査方法	回答方法
戸畑区内高校の生徒(6高校) 北九州市立高等学校/福岡県立戸畑高等学校 福岡県立戸畑工業高等学校/明治学園高等学校 福岡県立ひびき高等学校/星槎国際高等学校	チラシ(QRコード)配布	電子回答
地元住民	チラシ(QRコード)配布 紙アンケートの設置 (ウェルとばた、市民センター等)	電子回答 紙回答
バスケットゴール利用者	看板(QRコード)を現地に設置 チラシ(QRコード)配布	電子回答
文教祭参加者、見学者	チラシ(QRコード)配布	電子回答
小中学生(保護者含む) 戸畑中央小学校/高生中学校/飛幡中学校	チラシ(QRコード)配布	電子回答
その他	ホームページにて案内	電子回答

(3) 調査期間

令和7年10月5日～11月10日

(4) アンケート結果

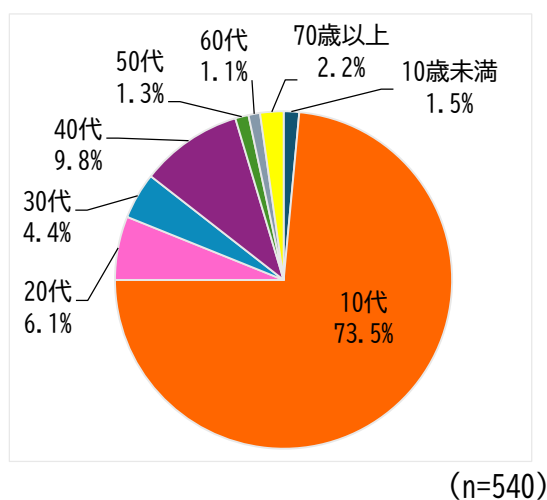
アンケート回収数 540 件

(集計にあたっては、各設問の有効回答数を分母 (n 数) として使用。)

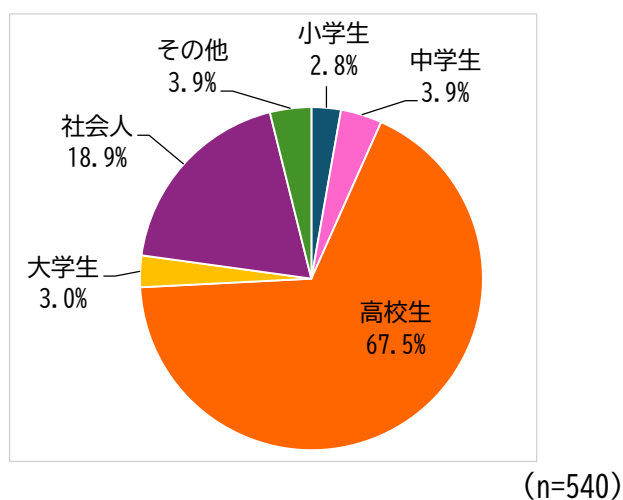
① 回答者構成 (Q1～Q4)

回答者は高校生を中心とする 10 代が全体の 73.5%と最も多く、戸畑区内の高校生を対象とした調査の影響が反映された結果となった。居住地は北九州市内が 52.1%、戸畑区内が 26.3%、汐井町公園から徒歩圏内が 18.6%と、実証実験周辺に居住している回答者が中心であり、汐井町公園の利用圏に近い層の意見が主に反映されている。性別は男性がやや多いが、男女双方から回答が得られた。

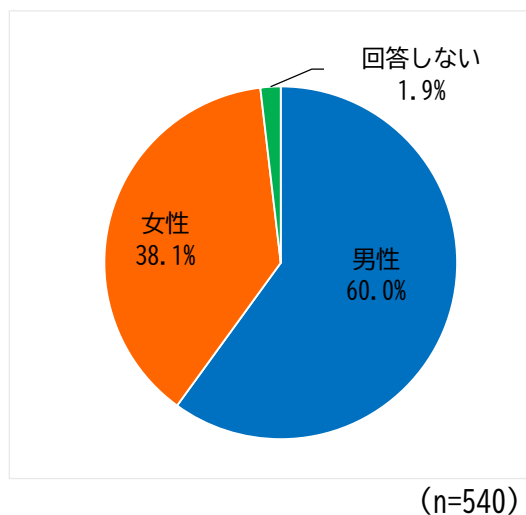
Q1. 年齢



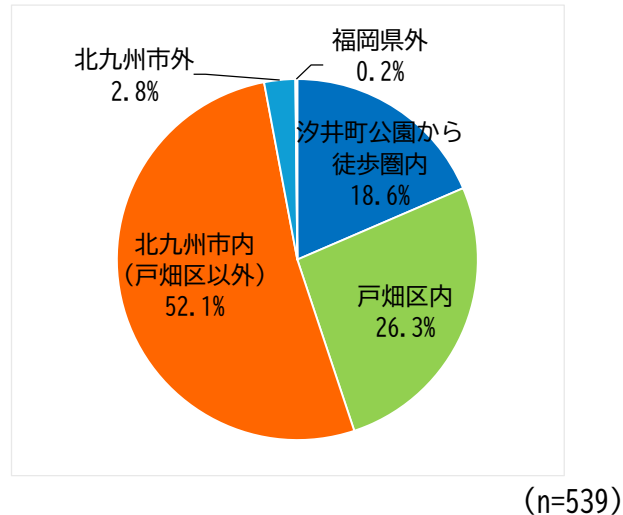
Q2. 属性



Q3. 性別



Q4. 居住地

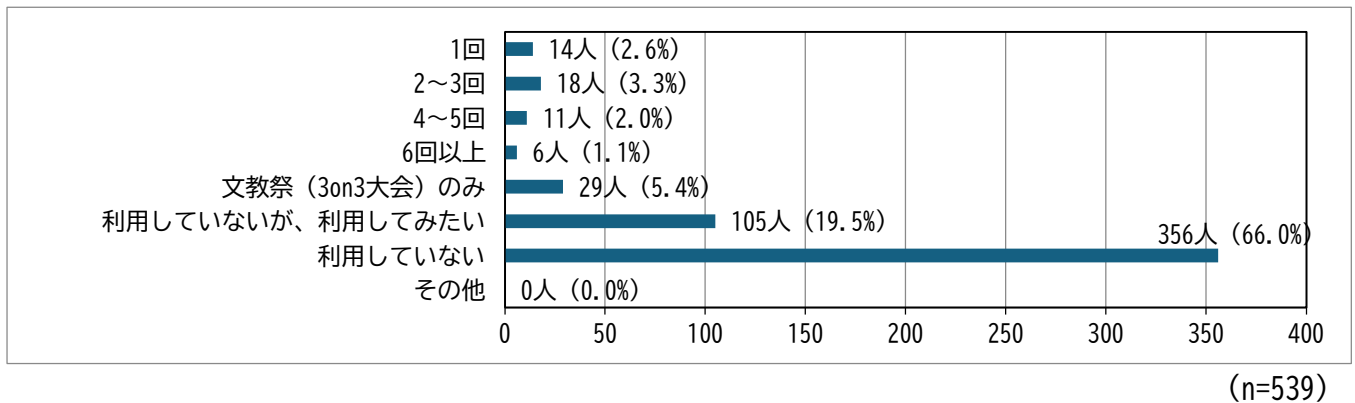


② 仮設バスケットゴールについて (Q5～Q11)

Q5. 汐井町公園の仮設バスケットゴールをどの程度利用しましたか？

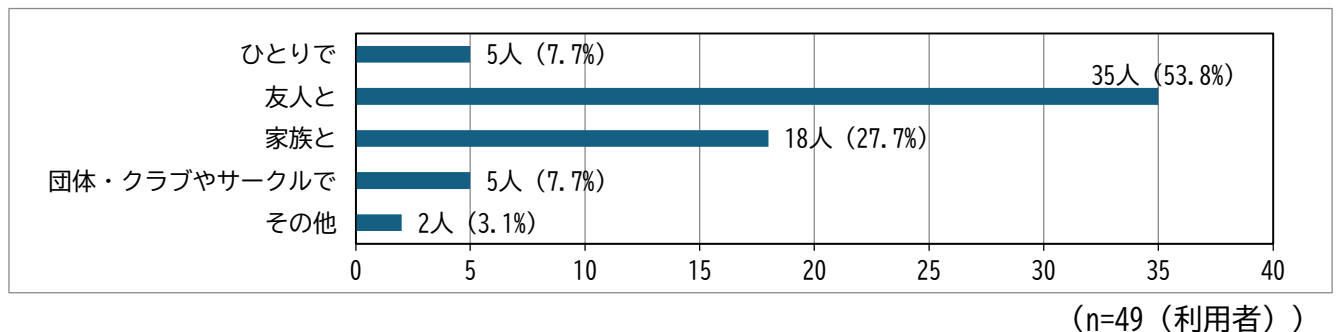
「利用していない」が全体の 66.0%で最も多く、回答者の大半が実証実験期間中にバスケットコートを利用していなかった。これは、回答者の多くが高校生であり、地域外住民を多く含んでいることを反映していると考えられる。文教祭（3on3 大会）を含み、バスケットコートを利用したと回答したのは全体の 14.4%だった。

また、「利用していないが、利用してみたい」は 19.5%となっており、バスケットコートへの潜在的な需要が確認できたと言える。



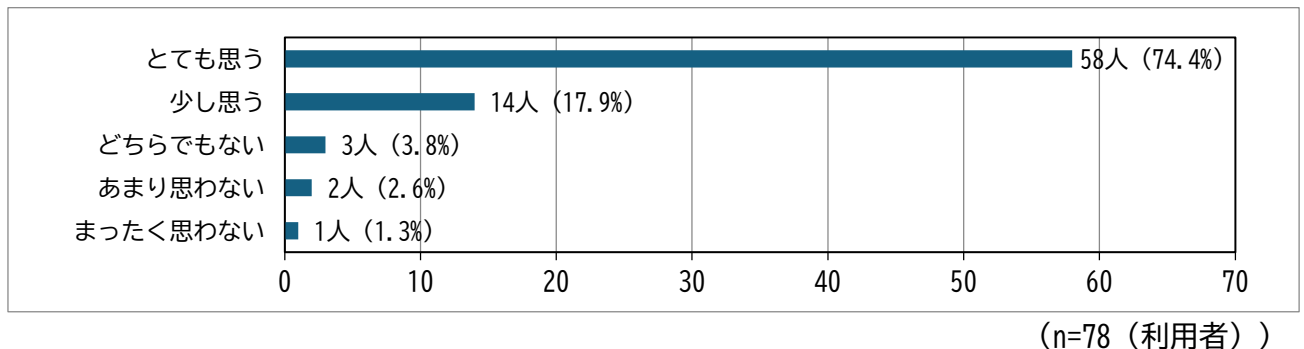
Q6. 誰とバスケットゴールを利用しましたか？（複数回答可）

「友人と」が全体の 53.8%で最も多く、次いで「家族と」が 27.7%だった。



Q7. 汐井町公園にバスケットゴールが設置されたことで人との交流が生まれたと思いますか？

「とても思う」が 74.4%、「少し思う」が 17.9%で、肯定的な意見が大半を占め、バスケットコートの設置による利用者間の交流の効果を確認できたと言える。

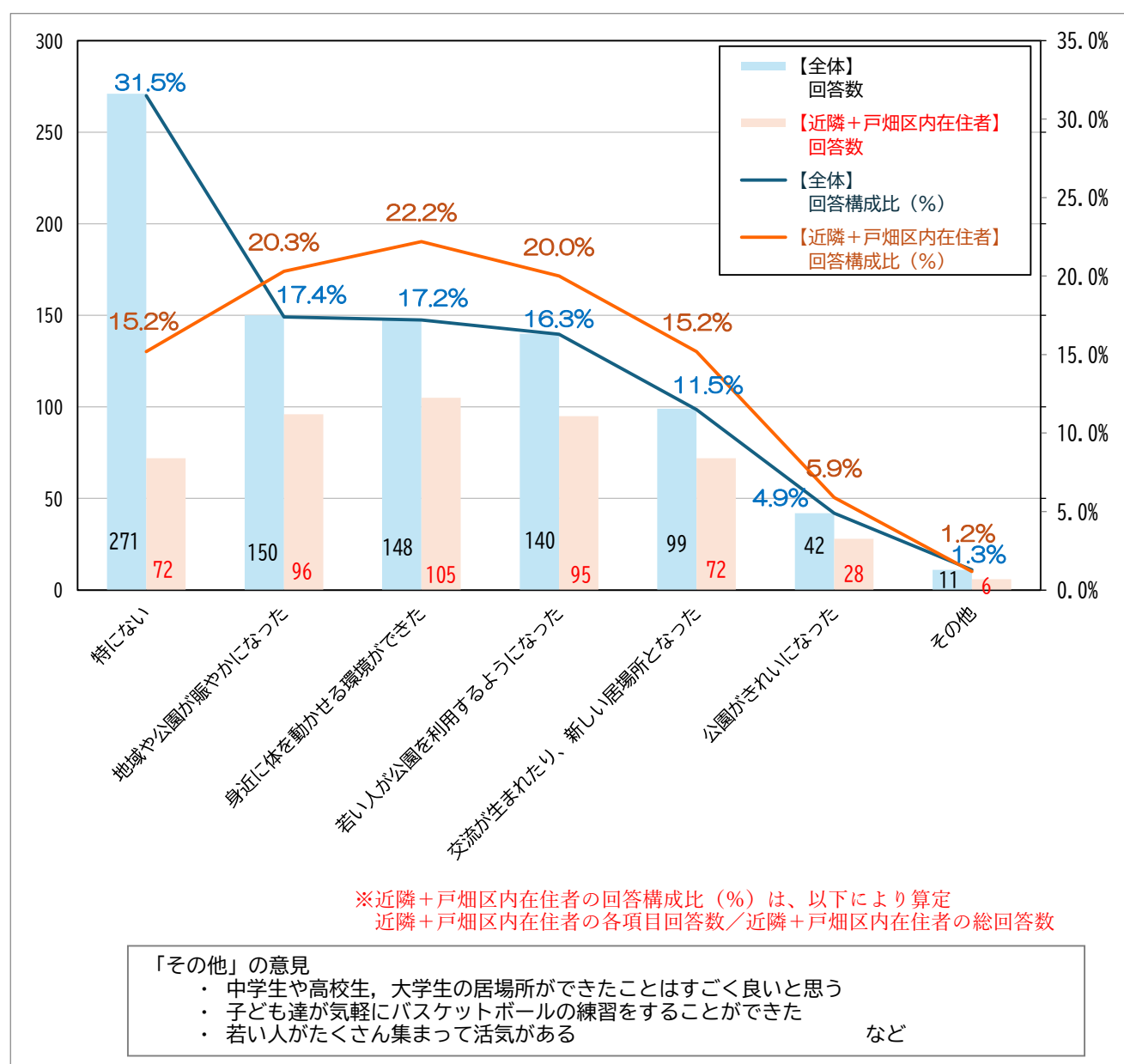


Q8. 今回の実証実験で、良いと感じた点があれば教えてください。（複数回答可）

「特にない」が31.5%で最も多く、これは、回答者の多くが期間中に公園を利用していないこと、また、回答者の多くが高校生であり地域外住民を多く含んでいることを反映していると考えられる。

一方で、利用した層からは賑わいや居場所づくりに対して一定の評価が得られており、「地域や公園が賑やかになった」が17.4%、「身近に体を動かせる環境ができた」が17.2%、「若い人が公園を利用するようになった」が16.3%、「交流が生まれたり、新しい居場所となった」が11.5%となり、バスケットゴール設置による公園の賑わい創出の効果が確認できたと考えられる。

また、近隣住民及び戸畑区内在住者に絞って回答の割合を見た場合、「特にない」が15.2%と全体回答に比較して割合が低く、「地域や公園が賑やかになった」が20.3%、「身近に体を動かせる環境ができた」が22.2%、「若い人が公園を利用するようになった」が20.0%、「交流が生まれたり、新しい居場所となった」が15.2%となり、全体と比較して割合が高く、本実証実験が近隣住民、戸畑区在住者にとって良い効果を生じたものと考えられる。



(n=538、総回答数=861)

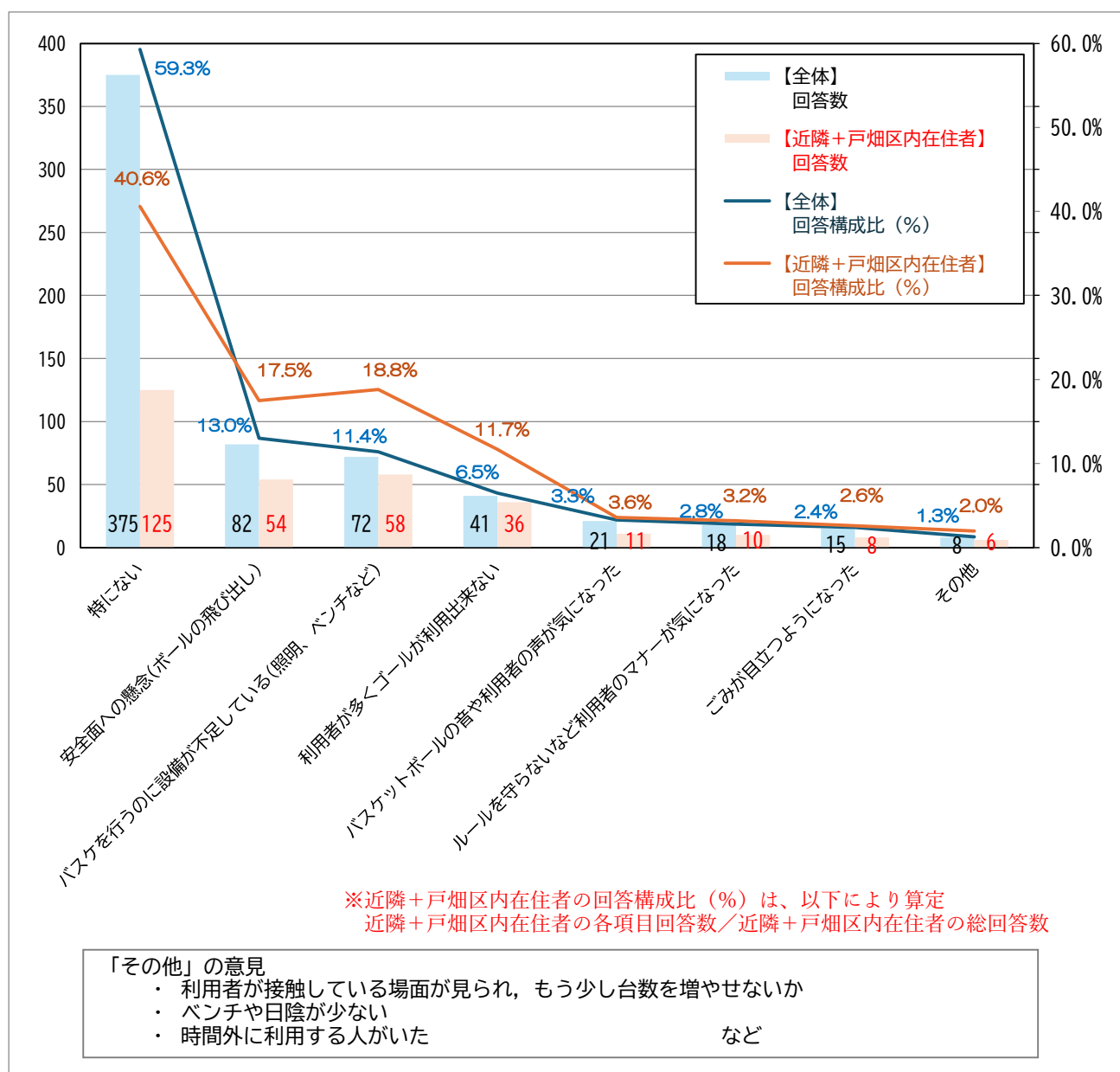
(n=241、総回答数=474 (近隣+戸畑区内在住者回答))

Q9. 今回の実証実験で、困った点があれば教えてください。（複数回答可）

「特になし」が59.3%で最も多く、これは、回答者の多くが期間中に公園を利用していないこと、また、回答者の多くが高校生であり地域外住民を多く含んでいることを反映していると考えられる。

次いで、「安全面への懸念（ボールの飛び出し）」が13.0%、「バスケットを行うのに設備が不足している（照明、ベンチなど）」が11.4%、「利用者が多くゴールが利用出来ない」が6.5%というように、より充実したプレイ環境を求める選択肢に回答が集中した。バスケットゴール設置によるネガティブな意見として、「バスケットボールの音や利用者の声が気になった」が3.3%、「ゴミが目立つようになった」が2.4%、「ルールを守らないなど利用者のマナーが気になった」が2.8%であった。

また、近隣住民及び戸畑区内在住者に絞って回答の割合を見た場合、「特になし」が40.6%と全体回答に比較して割合が低く、「安全面への懸念（ボールの飛び出し）」が17.5%、「バスケットを行うのに設備が不足している（照明、ベンチなど）」が18.8%、「利用者が多くゴールが利用出来ない」が11.7%と全体と比較して割合が高く、実体験に基づく主体性のある意見が多かった。



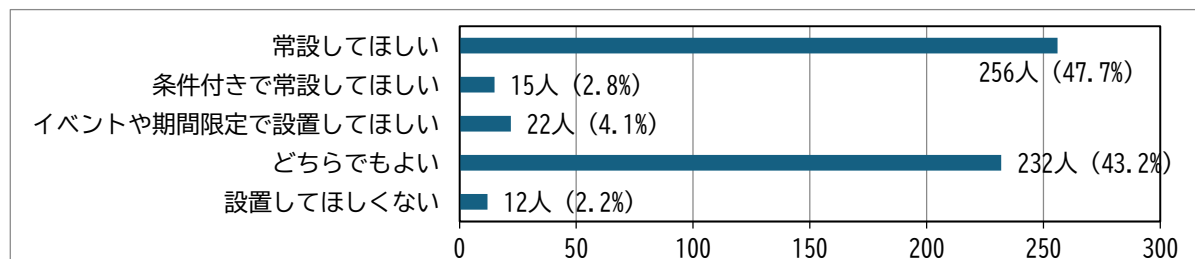
(n=536、総回答数=632)

(n=239、回答数=308 (近隣+戸畑区内在住者回答))

Q10. バスケットゴールの設置について、今後常設してほしいと思いますか？

「常設してほしい」が回答全体の47.7%で最も多く、汐井町公園でのバスケットゴール設置のニーズを強く示す結果となった。次いで多かったのは、「どちらでもよい」で43.2%となり、これは回答者の多くが地域外あるいは汐井町公園の利用を想定していない層であることが想定される。

「設置してほしくない」は全体の2.2%であり比較的少なかった。「条件付きで常設してほしい」では、ルール・マナー・安全対策に加え、プレイ環境改善の要望が確認された。



(n=537)

Q11. 汐井町公園にバスケットゴールが常設された場合、利用者と地域住民が円滑に共存するために、どのような工夫や対策が必要だと思いますか。(自由記述)

ボールの飛び出しに対する対策（フェンス設置等）や転倒時のケガ対策など、安全対策を求める意見が最も多く、利用に関するルールや利用時間の設定が必要との意見も多くみられた。

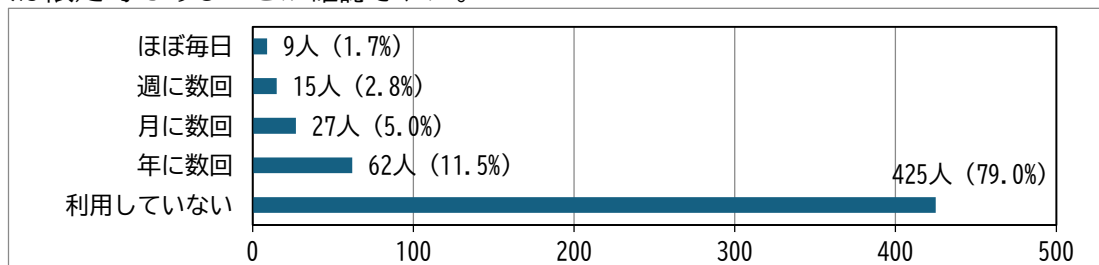
利用者と地域住民が円滑に共存するため、バスケットゴール利用者以外への配慮（安全、マナー等）が必要であることが確認された。

意 見		回答数
安全対策	・ボールの飛び出し防止対策、フェンス設置 ・転倒時のケガ対策（床材の見直し） など	56
利用時間の設定	・夜間の閉鎖 など	34
マナー啓発、ルール作り	・ルール看板の設置 など	32
施設整備	・子供向けゴールなど複数ゴールの設置 ・子供が遊べる遊具 ・設備設置（日かげ、ベンチ、照明、タイマー、トイレ 等） など	20
衛生、環境整備	・ごみ箱設置、鳩（鳩のフン）対策 など	8
施設の管理、運営	・管理人の常設 ・住民の意見を取り入れて理解を得る など	6
利用者層への配慮	・小学生など低年齢層について、使いやすい工夫や安全対策 など	3
その他	・バスケットゴール設置に賛成（交流が生まれてよかった） ・バスケットゴール設置に反対（騒音や治安問題がある） ・バスケットに限らず、子供が遊べる場所がほしい ・バスケット以外でも食品などの販売イベントしたらどうか など	23

③ 汐井町公園の利活用について (Q12～Q16)

Q12. 普段、汐井町公園をどの程度利用していますか？

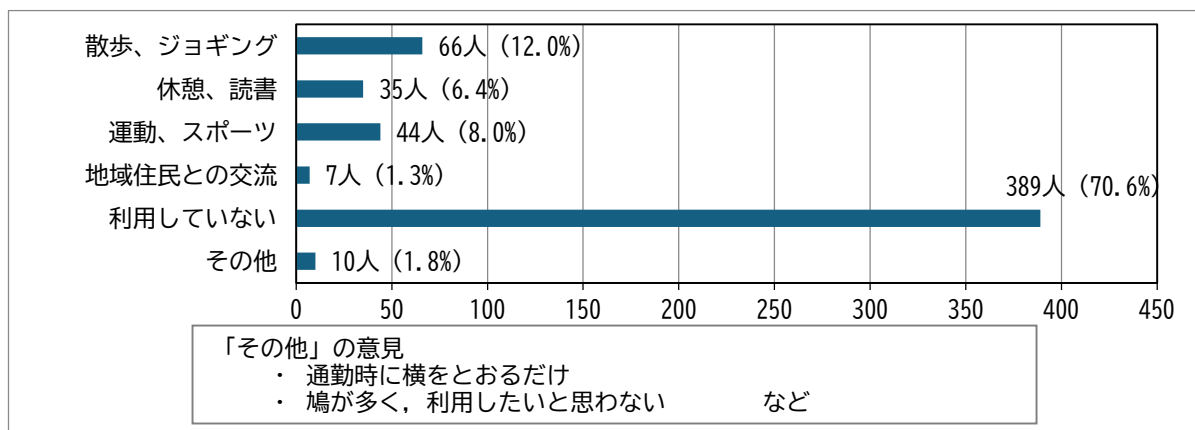
「利用していない」が79.0%で最も多く、回答者の大半は汐井町公園を普段利用していないことが分かった。次いで「年に数回」が11.5%、「月に数回」が5.0%であり、汐井町公園を定常的に利用している人は限定的であることが確認された。



(n=538)

Q13. 汐井町公園を利用する目的を教えてください。(複数回答可)

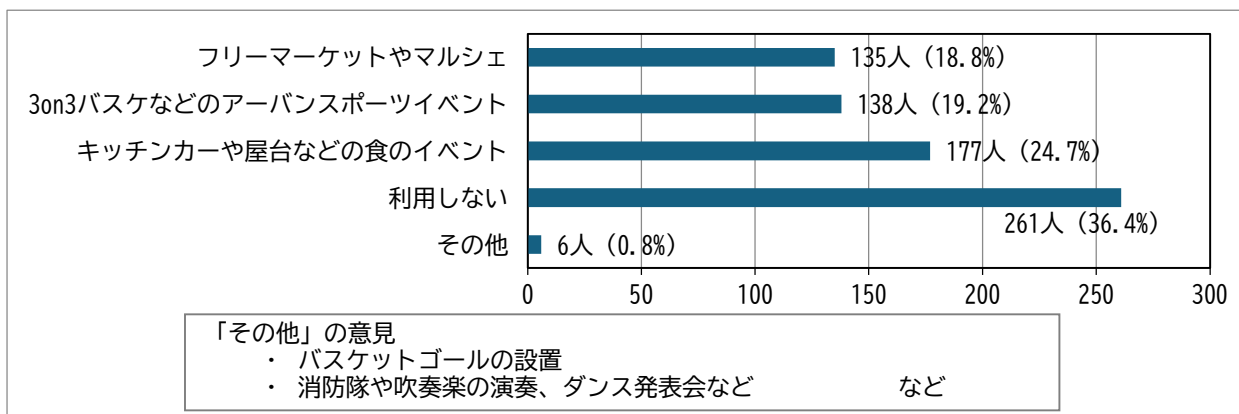
「利用していない」が70.6%で最も多く、Q12と同様の傾向となった。利用者の目的としては「散歩・ジョギング」が12.0%、「運動・スポーツ」が8.0%、「休憩・読書」が6.4%だった。



(n=527)

Q14. 今後どのようなイベントがあれば汐井町公園を利用したいと思いますか？(複数回答可)

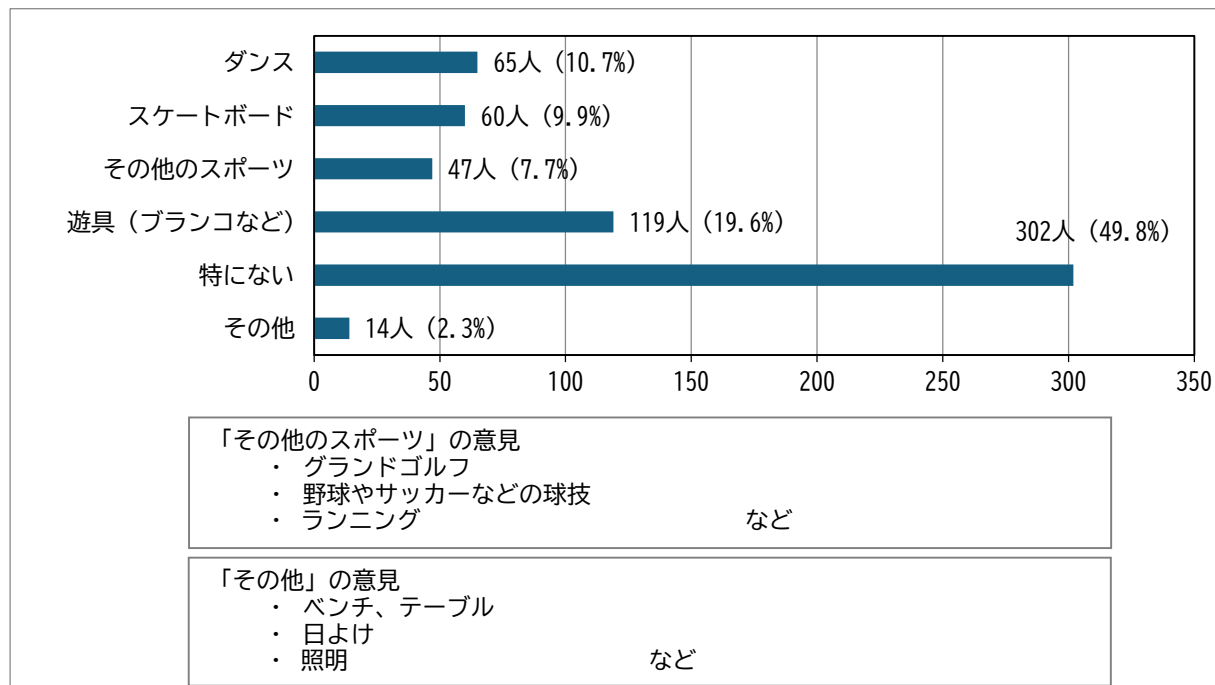
「利用しない」が36.4%で最も多く、これは回答者の多くが地域外あるいは汐井町公園の利用を想定していない層であることが想定される。選択肢のどのイベントでもイベントの内容によらず、一定の支持が得られた。



(n=537)

Q15. 汐井町公園の利活用にあたり、バスケット以外でやりたいスポーツや必要だと思う設備はありますか？（複数回答可）

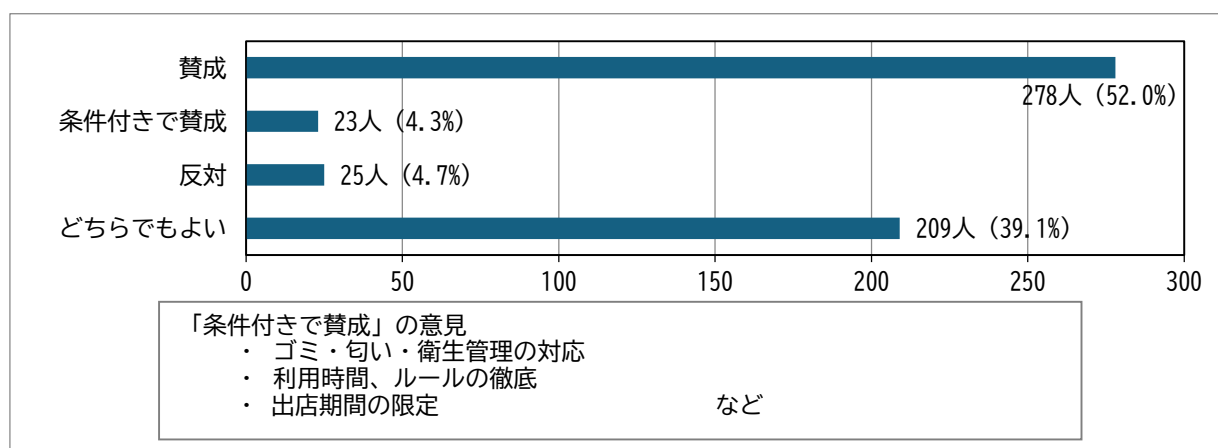
「特にない」が49.8%で最も多く、これは回答者の多くが地域外あるいは汐井町公園の利用を想定していない層であることが想定される。次いで「遊具」が19.6%が多く、「ダンス」が10.7%、「スケートボード」が9.9%、「その他のスポーツ」が7.7%となった。



(n=530)

Q16. 賑わいづくりのための屋台の設置についてどう思いますか？

「賛成」が52.0%で最も多く、屋台設置による賑わいづくりへの一定の支持が確認された。「反対」は4.7%だった。次いで「どちらでもよい」が39.1%で多かったが、これは回答者の多くが地域外、あるいは汐井町公園の利用を想定していない層であることが想定される。

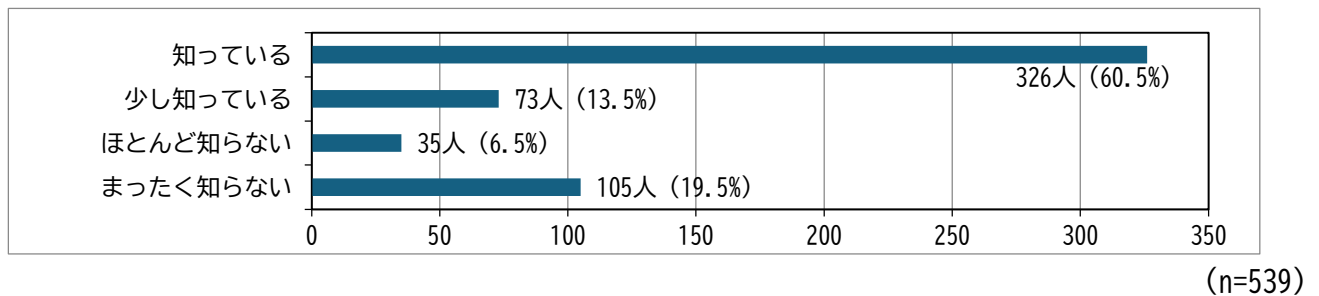


(n=535)

④ 3on3 について (Q17～Q24)

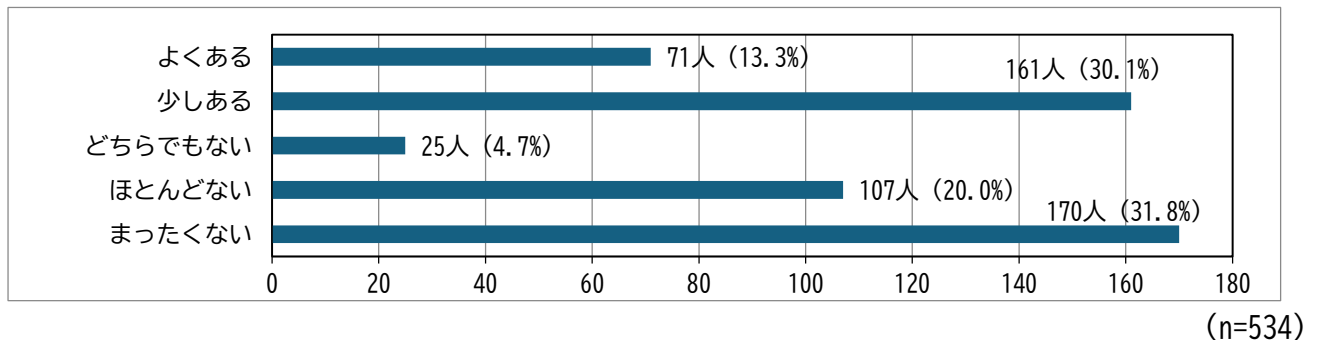
Q17. 3on3 というスポーツを知っていますか？

「知っている」は回答者全体の 60.5%、「少し知っている」は 13.5%となり、併せて 74.0%であった。3on3 について、回答者における認知度は高かった。



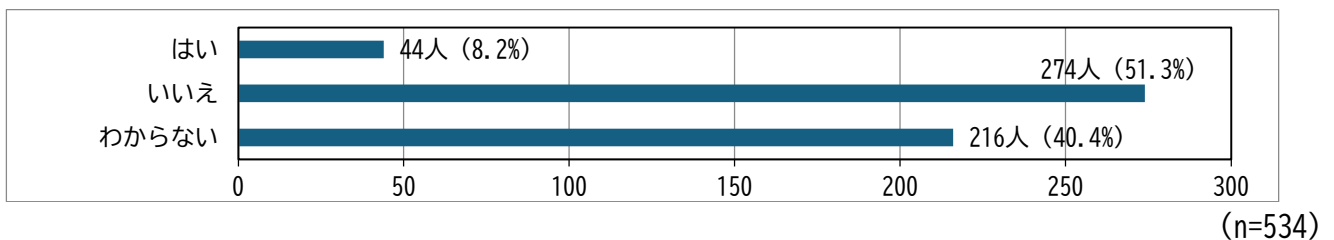
Q18. 3on3 をプレイしたり、観戦(テレビ等も含む)したことがありますか？

「まったくない」が回答者全体の 31.8%、「ほとんどない」 20.0%と合わせると、回答者の 51.8%である約半数がプレイ・観戦経験がないことが分かった。「よくある」は 13.3%、「少しある」 30.1%で合わせて 43.4%となり、プレイ・観戦経験者も同程度であることが確認できた。



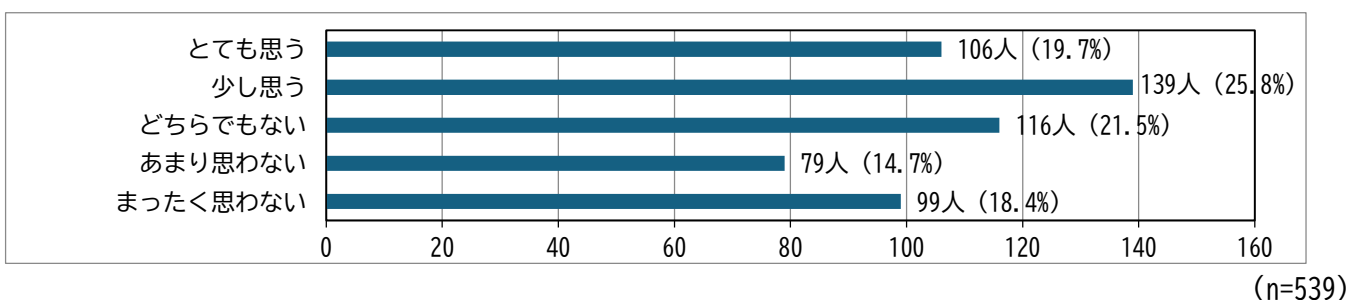
Q19. 3on3 をプレイしたり、観戦できる場所が身近にありますか？

「ない」最も多く全体の 51.3%で、「はい」と回答した人は全体の 8.2%にとどまり、身近なプレイ環境不足が示唆された。「わからない」は 40.4%であり、プレイ・観戦場所の認知度について課題が示唆された。



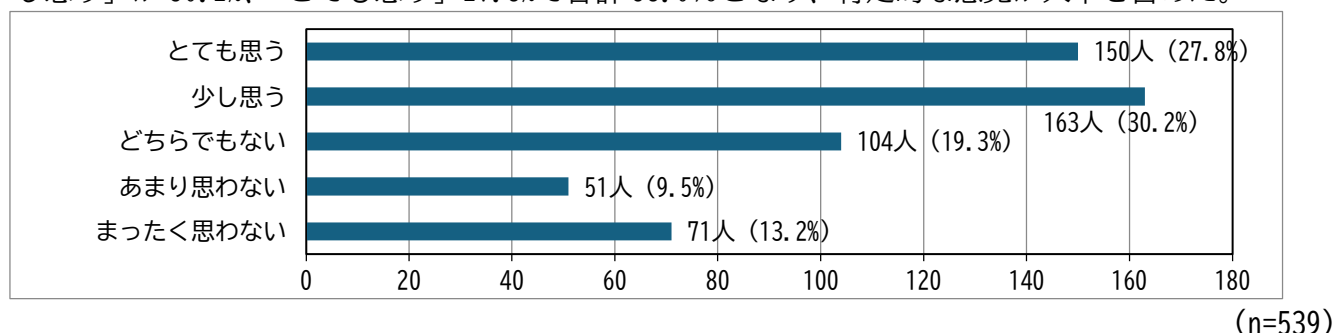
Q20. 3on3 をプレイしたり、観戦したいと思いますか？

「少し思う」が 25.8%、「とても思う」 19.7%で合計 45.5%となり、一定の関心が確認された。



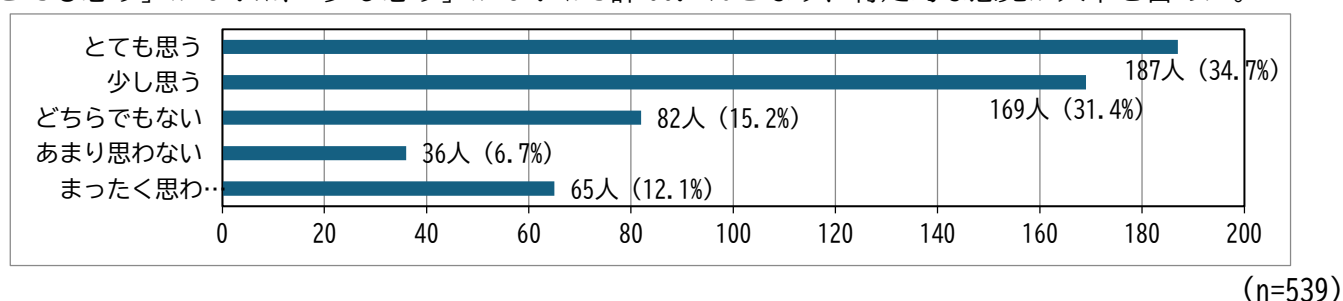
Q21. 3on3 ができる環境があると、地域の活性化につながると感じますか?

「少し思う」が30.2%、「とても思う」27.8%で合計58.0%となり、肯定的な意見が大半を占めた。



Q22. 3on3 ができる環境があると、遊び場や居場所が増え、新しい交流が生まれると感じますか?

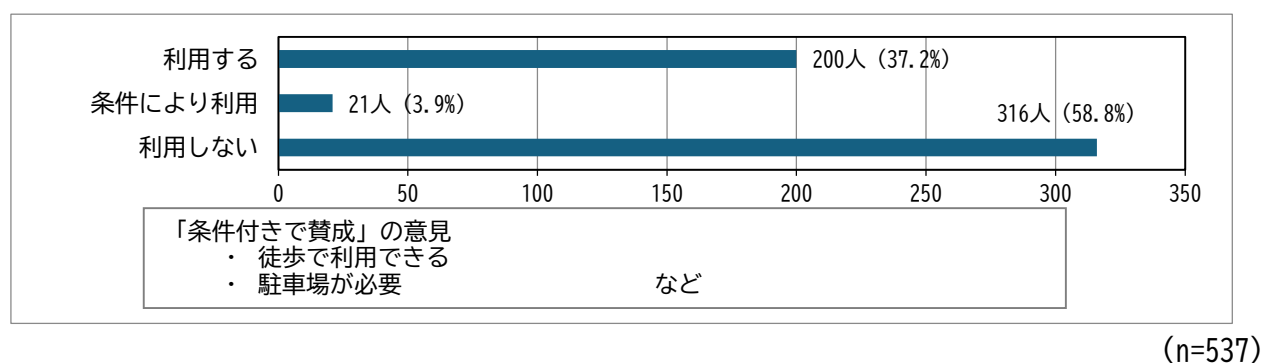
「とても思う」が34.7%、「少し思う」が31.4%で計66.1%となり、肯定的な意見が大半を占めた。



Q23. 騒音対策として、住宅地から離れた郊外の公園に 3on3 ができる環境を整備した場合、利用しますか?

郊外公園での 3on3 利用意向は「利用しない」が最も多く全体の 58.3%を占めた。

『条件により利用』では、「徒歩で利用できる」ことについての意見が多く集まり、中心市街地での利用需要の高さが示唆された。また、駐車場の必要性についても言及されており、郊外に設置する場合は車での利用を想定する必要があることに加え、児童や中高生など車での利用ができないユーザーの利用機会は限定されることが想定される。



Q24. その他ご意見等ありましたらご記入ください。(自由記述)

バスケットゴール設置の需要について、多くの意見が寄せられた。併せて、バスケットゴールの常設を念頭に、ハード・ソフトにおけるの具体的なプレイ環境改善案について意見が寄せられた。これらは、バスケットゴールが一つも設置されていない戸畑区におけるバスケットゴール設置の需要の高さ、また、汐井町公園での常設への強い希望を示している。

また、バスケットゴール設置に限らず、その他の環境・設備の充実による汐井町公園の整備による公園利用活性化への期待が寄せられていた。

一方、夜間の利用状況や騒音についての意見が上がった。特に、時間外の騒音、利用状況について不安や懸念が見られており、夜間利用の規制が極めて重要になると想定される。

意 見		回答数
バスケットゴール常設への要望、評価	・戸畑にバスケットゴールが無いので、ぜひ常設して欲しい。 ・賑わいがあった良かった。 など	15
マナー、利用方法に関する意見	・利用時間外に利用している人がいる。 ・ボールの貸し出しをして欲しい。 ・小学生と中高生と利用時間を分けて欲しい など	6
公園の管理、整備に関する要望	・照明を設置して欲しい。 ・鳩対策をして欲しい。 など	4
その他公園利用に関する要望	・子供が自由に遊べるようにして欲しい（遊具設置など） ・キャッチボールなど色々なスポーツが出来るようにして欲しい ・バスケだけでなく、ダンスなど出来る場所もよい。 など	4
地域活性化、まちづくりに関する意見	・戸畑をもっと活性化して欲しい など	2
その他	・高校生だけでなく、成人向けのバスケ大会もあると良い。 ・もっと広報、アピールをした方が良い。 など	5

3 まとめ

実証実験およびアンケート調査により、10代を中心にバスケットゴール常設の高いニーズと、公園の賑わい創出効果が確認された。一方で、フェンス等の安全対策や騒音・マナー対策といった管理運営上の課題も明確となった。

今後はこれらの声を真摯に受け止め、安全なプレイ環境の確保と地域住民の生活環境の保全を両立させるため、本アンケートの意見を参考に、具体的な設備仕様や利用ルールの検討を進めていく。